

評価実施時期：平成21年8月

担当部局名：内閣府 日本学術会議事務局

政策名	科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡 【実績評価方式】	政策体系上の位置付け																																							
		科学に関する重要事項の審議等																																							
政策の概要	<p>日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発展を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として設置された特別の機関であり、日本学術会議法において、その職務として、「科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること」及び「科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること」が定められている。</p> <p>日本学術会議においては、その設置目的の実現のため、具体的には、①政府・社会等に対する提言等、②各国アカデミーとの交流等の国際的な活動、③科学の役割についての普及・啓発及び④科学者間ネットワークの構築の4つの施策に重点を置いて活動を展開している。</p>																																								
政策に関する評価結果の概要と達成すべき目標等	<p>【評価結果の概要】</p> <p>(総合的評価) 上記の4つの施策については、いずれも施策の目標を十分に達成しており、行政、産業及び国民生活へ科学を反映、浸透させる上で大きな役割を果たしている。</p> <p>(必要性) 日本学術会議法において定められている日本学術会議の設置目的（科学の向上発展を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させる）を実現させていくためには、各学術分野の第一人者で構成される日本学術会議において、更に活発に政府、社会等に対する提言等を行うとともに、我が国を代表するアカデミーとしての国際的学術交流の積極的展開、社会との双方向コミュニケーションの充実等を図っていくことが求められている。</p> <p>(有効性) 上記の4つの施策については、いずれも、以下のとおり具体的な成果を挙げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府や社会等に対し、61件の提言等を行っており、その内容が学術専門誌、公開講演会等で取り上げられるなど、提言等の内容の実現に向けての成果が見られている。 ・科学的知見が世界の政策形成に反映されるよう、G8各国等の科学アカデミーと共同で、G8サミットの議題に関する提言を共同声明として発出した。また、各種国際会議等への参画等を通じ、各国アカデミーや科学者との連携が強化されている。 ・日本学術会議主催公開講演会、地区会議主催公開講演会及びサイエンスカフェをそれぞれ5回、8回、26回開催し、いずれも多数の参加者を得るとともに、アンケートにおいても好評を博している。 ・我が国の研究活動を支える学術研究団体の機能強化に向けて具体的な提言を発出した。また、地域の科学者からの意見・要望等をくみ上げることで各地域の問題点等を知ることができて、科学者間ネットワークの構築に貢献している。 <p>(効率性) いずれの施策においても、ホームページの活用等による成果物の効率的周知、会議開催等に当たっての効率的な実施、他機関との連携等により、より少ないコストで施策が実施できるよう努めている。</p> <p>(反映の方向性) 行政、産業及び国民生活へ科学を一層反映、浸透させていくため、今後とも、各施策を着実に実施していくとともに、更に効果的かつ効率的に各施策が実施できるよう、取組を進める必要がある。この点を踏まえ、予算要求等を行う。</p> <p>【達成目標、達成状況、実績値、達成目標の設定の考え方】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">達成目標 (平成20年度)</th> <th rowspan="2">達成状況</th> <th colspan="2">実績値</th> <th rowspan="2">達成目標の 設定の考え方</th> </tr> <tr> <th>19年度</th> <th>20年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門的かつ信頼性のある見解の提示・助言等を通じた政府・関係機関との連携を実施する</td> <td>達成できた</td> <td>-</td> <td>実施</td> <td>各期（3年間）の提言等の発出状況や委員会の例年の審議の状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>各国アカデミーとの連携等について、</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>G8学術会議共同声明を発する（1回）</td> <td>達成できた</td> <td>-</td> <td>1回</td> <td>これまでの発出状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>アジア学術会議を開催する（1回）</td> <td>達成できた</td> <td>-</td> <td>1回</td> <td>これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>二国間学術交流を実施する</td> <td>達成できた</td> <td>-</td> <td>実施</td> <td>これまでの交流状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>国際学術団体等への貢献について、 ICSU（国際学術会議）、インター アカデミーパネル等への対応を 実施する（2回）</td> <td>達成できた</td> <td>-</td> <td>2回</td> <td>これまでの対応状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> </tbody> </table>	達成目標 (平成20年度)	達成状況	実績値		達成目標の 設定の考え方	19年度	20年度	専門的かつ信頼性のある見解の提示・助言等を通じた政府・関係機関との連携を実施する	達成できた	-	実施	各期（3年間）の提言等の発出状況や委員会の例年の審議の状況を勘案して目標値を設定した。	各国アカデミーとの連携等について、					G8学術会議共同声明を発する（1回）	達成できた	-	1回	これまでの発出状況を勘案して目標値を設定した。	アジア学術会議を開催する（1回）	達成できた	-	1回	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。	二国間学術交流を実施する	達成できた	-	実施	これまでの交流状況を勘案して目標値を設定した。	国際学術団体等への貢献について、 ICSU（国際学術会議）、インター アカデミーパネル等への対応を 実施する（2回）	達成できた	-	2回	これまでの対応状況を勘案して目標値を設定した。			
達成目標 (平成20年度)	達成状況			実績値			達成目標の 設定の考え方																																		
		19年度	20年度																																						
専門的かつ信頼性のある見解の提示・助言等を通じた政府・関係機関との連携を実施する	達成できた	-	実施	各期（3年間）の提言等の発出状況や委員会の例年の審議の状況を勘案して目標値を設定した。																																					
各国アカデミーとの連携等について、																																									
G8学術会議共同声明を発する（1回）	達成できた	-	1回	これまでの発出状況を勘案して目標値を設定した。																																					
アジア学術会議を開催する（1回）	達成できた	-	1回	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。																																					
二国間学術交流を実施する	達成できた	-	実施	これまでの交流状況を勘案して目標値を設定した。																																					
国際学術団体等への貢献について、 ICSU（国際学術会議）、インター アカデミーパネル等への対応を 実施する（2回）	達成できた	-	2回	これまでの対応状況を勘案して目標値を設定した。																																					

	その他の国際学術団体等への代表派遣等を実施する	達成できた	-	実施	これまでの代表派遣等の状況を勘案して目標値を設定した。
	共同主催国際会議を開催する(7回)	達成できた	-	8回	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。
	日本学術会議主催公開講演会等を開催する	達成できた	-	実施	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。
	地区会議公開講演会を開催する	達成できた	-	実施	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。
	学術団体をめぐる課題についての審議等を行い、報告書を取りまとめる	達成できた	-	報告書の取りまとめ	審議の結果等を外部に報告する(報告書等を作成する)ことを目標値として設定した。
	地区会議を開催する	達成できた	-	実施	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。